《 火山、地震 いま日本列島で何が？ 学習講演会のご案内 》

八甲田・十和田は今も生きている

昨年9月27日の御嶽山噴火は死者57人、行方不明者6人という大惨事をもたらしました。政府の中央防災会議は、**常時観測対象火山47火山に、八甲田山、十和田**と中部山岳地帯の3火山を加えて50火山とする、活動火山対策特別措置法改正案を提出しました。

八甲田・十和田は今も生きているからです。

デーリー東北

3月27日(金)

火山監視体制 強化

八甲田山 十和田

常時観測に追加、計50に

中央防災会議報告

デーリー東北 2015.3.27

十和田火山は、過去10万年以内に数回にわたって、青森・秋田・岩手の半径50Km以上の広い範囲に激烈な火砕流を流しました。915年（平安時代）の噴火の火砕流堆積物は、直後に巨大な土石流となって米代川流域を襲い、大災害をもたらしています。

身近な十和田火山の生い立ちと噴火の脅威を知り、今後の活動性を考えることは大きな意義があると思います。

50年に渡り、十和田火山について調査・研究をされてきた松山 力 氏が、その生い立ちを中心に、奥入瀬渓流沿いの八甲田火山域火砕流堆積物にも触れた講演をします。

どなたでも自由に参加できます。多数の方々の参加をお待ちしています。

岩手・宮城内陸地震の現地調査（前列右が松山 力）

10月下旬、五戸、十和田市（奥入瀬川流域）、十和田湖、新郷村（淺水川流域）で、火山地形、火成岩、火山灰、埋没林、火砕流による炭化木などの現地見学を計画しています。この講演をお聞きになり、予備知識を得てからの参加をお勧めします。

講師プロフィール

1932年 階上町生まれ。1955年東北大学理学部地質・古生物学科卒。1955年～1997年 八戸高校などの高校教師を歴任。

現在、青森県埋蔵文化財調査センター調査員。50年に渡り、十和田火山の研究に従事。20年近く、八戸市の鴎盟大学で「十和田火山の生い立ち」の講義を行っている。

■ 日　時 ： **2015年9月4日（金） 午後3時30分～5時30分**

■ 会　場 ：**青森センターホテル 2F 会議室**

（青森市古川１丁目 10−91）電話:017-762-7500

■ **入場無料 ： どなたでもお気軽においで下さい。**

■ **講　師 ： 松 山　力　氏** （ **日本科学者会議青森支部八戸分会々長** ）

主 催：核燃サイクル阻止１万人訴訟原告団　　連絡先：0178-47-2321